



設計を知る

建て主の要望をもとに、素材や工法の選定、立地や環境や法規などに適した家を考えるプロとして設計者が必要です。設計者は建て主の依頼により、建て主の利益を守り、その地域の住環境に貢献する責任の自覚が求められます。



素木の会の事務所の建物 (No. 21 創夢舎)

- 実例をみる (とどまる)
- 設計者の姿勢を聞く (木の名前を言って次へ)
- 設計の進め方を聞く (次へ進む)
- 生活感を伝える (次へ進む)
- 予算を生かす (次へ進む)
- 設計者を決める (次へ進む)



木の家を学ぶ

「木の家をつくらう」とアンテナを張っていると、書籍やインターネットなどからでも情報に出会うものです。でも、百聞は一見にしかず、足を運んで実際の「木の家」を見たり、その関係者へ話を聞くことです。



セミナー風景 (No. 22 はなの木の家)

- 建て方を見る (7へ進む)
- 完成を見る (鳥の名前を言って次へ)
- セミナーに参加する (とどまる)
- 建て主に聞く (次へ進む)
- 棟梁に聞く (5へ進む)
- 設計者に聞く (次へ進む)



森林を知る

需要の8割を外国産材に頼る現在、山は荒廃しています。山の荒廃は災害の発生など暮らしへの危険信号です。山の木は伐ったら植えることで、無限の木材資源となります。「木の家」をつくるのが、森林を育て暮らしを守ることに繋がります。



西川材の伐採風景 (伐ったら植える)

- 山へ行く (動物の名前を言って次へ)
- 山の荒廃を見る (前に戻る)
- 伐採を知る (次へ進む)
- 植林を知る (7へ進む)
- CO2を固定する (1回目)
- 山の宝を知る (8へ進む)



木材を知る

木は人間と同じ生物素材、大切にしたいものです。無垢の木は経年変化による味わいと人間の五感に一番なじむ建材です。安全安心の空間を提供する木材はエコロジカルかつエコノミカルな自然素材です。



製材の風景 (上)

天然乾燥を見る (左) (No. 23)

- 原木市場を見る (1回目)
- 製材所をみる (木まねをする)
- 天然乾燥を知る (次へ進む)
- 修正挽きを知る (10へ進む)
- 人工乾燥はユックリ (とどまる)
- 近場の木を使う (川の名前を言って次へ)



家づくりを考える

木の家をつくらうと思ったとき、何処に相談しますか? 「家は買うもの」と思われがちな今日、本物の「木の家」を手に入れるには、「木の家をつくる」という思いを持ち続けること、楽しみながらの家づくりを心がけることが大切です。



「民家こそが、人間と自然を結ぶ、非常に重要な接点」

- 本を見る (山の名前を言って次へ)
- ネットをみる (とどまる)
- 住宅展示場へ行く (1回目)
- 不動産業者へ行く (1回目)
- 工務店(大工さん)へ行く (2へ進む)
- 設計事務所へ行く (7へ進む)

